青葉を見て。

一ノ口生

青聯の人々と手をにぎるのだ。此の喜びを持って某駅についた。十二時前なのに太陽の光は燒きつくが如く俺達を激勵してくれた。殺風景だ、塵埃騒音の中に一日しばられてゐる俺達は、十年も[illegible]た如く、[illegible]に来た村人全てが一変した。若さ、元気に満ちた青葉が笑顔を持って、微風と共に俺達を迎へ、大川も水面に微笑をこぼして迎へてくれる。だが！此の平和な楽園の様な農村に、無邪気で元気な青年が陰にも階級斗争の血で埋まれてたらと思ふと、平和な楽園も戦場と化してゐるのだ。何故か、如何に地主が―俺達の方では[illegible]！小作人を苦しめてゐるかと云ふ事は、労農懇談会の席上で話してくれた生々しい斗争史が物語ってゐる。工場も農村も無産者であるかぎり―俺達は苦しめられてゐるのだ、だから俺達は全無産者と団結しなければならない、孤立したストライキは決して勝てない、其の意味に於て府縣の兄弟と手をにぎつた事は良いと思ふんだ。これから互に一緒になって斗かう。

―Z―

日曜日のピクニックで青戸に行った。この時、我々は実に愉快であった。農民の人達と我々と座談会をやった。農民の人達は実に勇敢であった。我々もそれにならってやらなけりゃならない、我々もこれから一生懸命にやらう。

Y

賃下ゲ、首切りと打續く旦（だん）つくの暴的搾取網の中に俺達の音楽合唱団が出来たぞ。去ル十四日の第二日曜日に第一回のピクニックを決行したのだ、場所は押上から乗って青戸駅から三里ばかりある[illegible]なのだ。道中で農民の子供と俺達の歌を歌ひながら歩いた、御宮の際で組分けで野球をやつて遊んだりした。畠の中ですげ笠をかぶつた娘さん達の働く姿なども見へた。腹がへつたので持って居たにぎり飯を食ひながら歩いた。目的地の百性家へ着いた。三里も歩いたので又腹がへつてしまつた。めしの事を頼んで、めしのたける間、皆なで歌を大声で唄ひながら近所を歩いた、[illegible]が此れを聞いて、驚いてゐやがつた、可愛らしい娘さんが東京の[illegible]屋さん、めし食べと呼びに来た。さあいゝぞ、[illegible]へって泣顔しながら[illegible]

八杯食ったっけ。誰だっけ、こんな時に女の人が居て給仕でもしてくれゝば猶うまいなんて言ったのは誰だ。でも俺だ。[illegible]さう〳〵俺達の音楽團にはダンガールが澤山ゐて誰にでも親切に良く[illegible]入って[illegible]どん〳〵[illegible]組合の人と組合に[illegible]全農の批判会[illegible]色々の話[illegible]時頃散会した。あぜ道[illegible]どんより曇った[illegible]かへるの聲も聞きながら螢取りした[illegible]静まり返った田舎道を大声で合唱した[illegible]しながら歩いた。清い水の流の音我等の合唱の歌の調子を取つてくれるやうだった。其に効果百パーセントの今日の様なピクニックを皆んなも音楽團に入って、どん〳〵やらうよ。女も前に言った様に澤山来るさ。

だが、兄弟往復七八里歩いたので、足に豆が出来たのには一寸泣き面してしまつたな。だが誠に面白かつた。

プロレタリア音樂家同盟の仕事

(一)プロレタリア音樂の生産(鬪争歌の作曲)世界各国のプロレタリア音樂の紹介。(二)プロレタリア音樂運動の大衆化。

以上の二つの点を広汎なプロレタリア文化運動(文学運動、演劇運動、映画運動、其他あらゆるプロレタリア教化運動)の一翼として遂行する任務がP.Mに課せられてゐるのである。では如何なる方法で具体的に進めて行くか、労農大衆の具体的要求に応じ得る様な音樂を生産すべきである。それは労農大衆と日常的に接觸する事によつて、労農大衆の感情を的確に把握しなければならない、それはP.Mの全メンバーの義務である。それと共に労農大衆の中から良のプロレタリア音樂家を生みださなければならない。皆が作つた様な労仂者(農民)音樂グループをもつと/\澤山作り、P.M.は専門の音樂の技術(譜の讀み方、ハーモニカの吹き方、ヴァイオリンの彈き方等々)を教へて、どん/\優秀な労仂者自身の本當のプロレタリア音樂家(作曲家)を作る事によつて正しい音樂運動の発展はあるのだ。決してP.Mのみでは正しいプロレタリア音樂は生れつこない。もつと具体的に言へばその労仂者(農民)音樂家は決して職場を捨てゝ音樂家になるのではなくて職場中での日常鬪争にピツタリする音樂を生み出すのであつて、それこそ本當のプロレタリア音樂なのだ。

その第一歩として今度作つた此のグループはすばらしい意義があるのだ。兄弟!うまく此の音樂團を育てゝ行かうぜ。

プロレタリア文化運動のヘゲモニー(指導)は皆の様な労仂者(農民)大衆が持つてゐるんだぞ。だからP.Mに対して否ナツプ全体に対しての不平不満はどん/\言つてくれ、!、此度俺達の足りない点は清算し皆の正しい要求を取り上げるぞ!

★日常鬪争の行進歌としてのプロレタリア音樂の生産へ!

★下からのプロレタリア音樂の大衆化へ!

最初の労仂者音樂團萬才!

(編輯後記)

俺達の第一号ニュースが実にすばらしく出来たぞ、これからは全部の者がどんな事でも良い自分の思つた事をどん/\書いてくれ!ニュースの充実は俺たち音樂団の生長を外の兄弟に知らして、どん/\俺たちの様な下からの文化鬪争の運動をマキオコス、キツカケを與へる事になるのだ。

★労働者の文化は労働者の手で!

★音樂に趣味をもつてゐる者は皆このグループに入つて一緒に音樂をやらうじやないか。とても面白いぞ。

(一九三一年六月廿一日発行)